

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：30102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03213

研究課題名(和文)形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異

研究課題名(英文)Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables

研究代表者

時崎 久夫(Tokizaki, Hisao)

札幌大学・地域共創学群・教授

研究者番号：20211394

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：言語の形態統語構造(語や句、節の内部構造)が音声にどのように反映されるか、その仕組みを、ノーム・チョムスキーらによる生成文法の枠組みで研究した。生成文法の現在の方策であるミニマリスト・プログラムでは、統語計算部門(文法)において、2つの語や要素の結合によって集合が作られ、それにさらに1つの語や要素が結合して、節や文ができるとされる。その集合の構造が、強勢や発音の区切りなどによって音声に表現(外在化)されるということを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀の生成文法では、統語部門(文法)の中に、世界の言語に共通する普遍文法と、語順などの各言語で異なる現象を扱うスイッチのようなパラメーターを仮定していた。しかし、本研究では、近年のミニマリスト・プログラムに基づき、言語の差はすべて各言語の音韻の特徴から生じるという仮説を提出し、語順や複合語の生産性などは、語の中の強勢の位置が元になって決まるということを論じた。例えば、日本語は語頭に強めがあるため、目的語-動詞の語順になるが、英語は語末から3つめまでに強勢があるため動詞-目的語の語順になる。

研究成果の概要(英文)：In the current framework of generative grammar, we studied how the structure of words, phrases and clauses are mapped onto phonology (speech sounds). The minimalist program of linguistic theory by Noam Chomsky assumes that two syntactic objects (e.g. words) are combined (merged) together to make a set (e.g. a phrase), with which another syntactic object merges to make a larger set. We argued that the structure of sets (phrases) are mapped (Externalized) onto phonology with stress and phonological boundaries.

研究分野：言語学

キーワード：外在化 文法 インターフェイス 音韻論 統語論 パラメーター 類型論 ミニマリスト・プログラム 生成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

統率束縛(GB)理論においては、言語間の差異を統語演算体系内部のパラメーターで説明する試みがなされていたが、90年代初頭から、説明的妥当性/言語習得の観点から、狭い意味での統語演算体系(narrow syntax)自体ではなく、その外にある認識可能(detectable)な体系に言語間の差異を求めようになってきた(Chomsky 2001)。Berwick and Chomsky (2011:37)が指摘するように、内的な統語構造物(internal syntactic objects)を外的な感覚運動体系(sensory-motor system)で利用できる形に変換し外在化(externalize)する形態音韻部門が、言語の多様性を説明する上で重要な役割を果たすと考えられ始めた。この外在化の射程は広く、統語構造物の線形化や形態的・音韻的現象およびこれらの相互作用など、様々な観点で研究する必要がある。また、EPPなどの統語素性に頼ってきた分析も、Richards (2010)などの音韻による再分析が始まっており、Richards (2014)では、Tokizaki (2011)などの提案が取り入れられて、本研究と影響し合っていた。このような背景の中で5年間の研究を行った。

2. 研究の目的

本研究では、統語部門における演算プロセスは言語に関わらず均一(uniform)であるとの考えのもと、統語構造物を音声形式(PF)に写像する外在化の過程における形態および音韻・音声に関わる演算部門の特性とそれらの関係を明らかにすることを目指す。具体的には、(i)それぞれの部門間の相互関係、(ii)パラメーターの特性、(iii)写像過程におけるそれぞれの部門の位置づけ、に関する理論的モデルを構築し、経験的に検証していった。

3. 研究の方法

研究代表者は分担研究者と打ち合わせの上で、それぞれが専門とする細目の研究を決定し、個々に研究を行う。その成果を公開の研究発表会で定期的(年2回)に報告し、全体で検討した。また、日本英語学会・日本言語学会を始めとする国内や国外の学会でワークショップやシンポジウムを企画し、研究成果を広く紹介した。さらに、分担研究者以外にも、国内・国外に参加を呼びかけて、国際ワークショップを複数回(隔年)開き、成果を広く発表し、検討した。

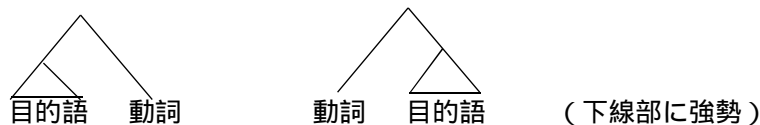
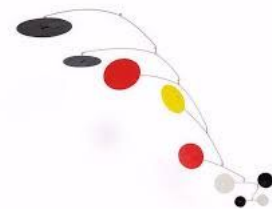
国外の研究者とも交流し、ワークショップへの招聘を含め、研究の相互進展に努めた。さらに、この分野の国内外の若手研究者の育成も視野に入れてワークショップを運営した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

統語部門における演算プロセスは言語に関わらず均一(uniform)であり、語順などの、言語の差異は、各言語の音韻特性の差異に基づくという普遍統語論・パラメーター音韻論の仮説(Universal Syntax and Parametric Phonology (USPP))を具体的に検証した。まず、統語部門では、併合(Merge)という、1対の語や句を組み合わせる操作によって、より大きな集合(句など)が作られるが、この段階では順序はない。この集合が音韻部門に転送されて外在化されるときに初めて語順が決定されることになる。これは、Uriagereka (1999)の比喻を使えば、宙に浮るされたモビールのようなものと言える。

本研究では、この語順の決定が各言語の音韻特性、特に強勢の位置によるものであるという説を示し、具体的な言語で実証を試みた。例えば、ドイツ語などのゲルマン諸語は、語や句の強勢が前方にあり、目的語-動詞のような主要部後行の語順となるのに対し、フランス語などのロマンス諸語では、語や句の強勢が後方にあり、動詞-目的語のような主要部先行の語順となる。この強勢位置と主要部位置の相関は、世界の言語に広く見られることを示した。強勢位置と主要部位置が相関する理由としては、強勢は構造の深いところに置かれるため、動詞のような単一の要素ではなく、その目的語(補部)のような句(集合)に置かれるためであることを論じた。語や句の強勢を前方に持つ言語は、目的語-動詞のような主要部後行の語順に音声化(外在化)する必要があり、語や句の強勢を後方に持つ言語は、動詞-目的語のような主要部先行の語順に音声化(外在化)する必要がある。



このようにして、音韻と語順の相関を理論的に説明することができた。主要部と補部の語順が異なる範疇で一貫している言語は、すべての範疇で、その大きさによらず同じリズムを持つと仮定すれば説明できる。しかし、範疇によって主要部と補部の語順が異なる、いわゆる不調和語順の言語が問題となる。

まず、語や複合語、名詞句などの小さな範疇で主要部後行語順をとり、動詞句や従属節などの大きな範疇で主要部先行語順をとる英語などの言語は、語強勢が語末音節から語頭にかけていくつまで許容するかということに依じて段階的に多数が存在することを明らかにした。

さらに、これにも当てはまらない言語についても、その音韻を詳しく見ていくことで、語順が説明できることを論じた。具体的には、ドイツ語と中国語を取り上げた。ドイツ語では名詞句、形容詞句、動詞句などで主要部後行語順をとるが、決定詞句、前置詞句、従属節では主要部先行語順をとる。これは、ドイツ語が本来、語幹第1音節に強勢を持つことによる。強勢を持たない接頭辞を許すのと平行して、機能語であり、強勢を持たない決定詞、前置詞、従属接続詞がそれを主要部とする句や節に先行することを許すのである。

また、中国語の音韻はドイツ語と、強勢に関して鏡像関係にあることを論じた。中国語では、変調(トーン・サンディー)が語や句の末尾で起こるので、語末に強めがあると考えられ、多くの範疇の句で主要部先行語順となる。

このように、一貫しない語順を持つ言語についても、その音韻システムを精査することにより、語順との関連が説明できる。よって、こうした言語も、音韻が語順を決定するという仮説を支持するさらなる証拠と捉え直すことができる。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

近年のミニマリスト・プログラムでは、主要部と補部の語順を決定する主要部パラメーターは外在化のパラメーターであると考えているが、その具体的な仕組みは探求されていない。その中で、本研究は、統語構造を音韻部門に外在化する際に、各言語の音韻体系、特に語強勢などの強勢位置が主要部と補部の語順を決定するという説を提示し、その具体的な働きを世界の言語について示した。この研究成果については、国内外で、学会発表と論文の形で発表している。強い仮説であるため、反論も出てきているが(Irurtzun 2020)、インパクトを与えて外在化に関する議論を活性化させることができつつあると考えられる。

(3) 今後の展望

本プロジェクトでは、共時的な類型論に基づいて世界の言語について研究してきたが、歴史的な変異についても、同じことが言えると考えられる。共時的研究に加えて、通時的研究を行い、理論の検証に努めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 Tokizaki, Hisao	4. 巻 1
2. 論文標題 Word stress, pitch accent, and word order typology with special reference to Altaic	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The study of word stress and accent: Theories, methods and data	6. 最初と最後の頁 187-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.1017/9781316683101.007	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tokizaki, Hisao	4. 巻 60
2. 論文標題 Review of Phonological Typology by Matthew K. Gordon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in English Literature, English Number	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tokizaki, Hisao	4. 巻 4
2. 論文標題 Word-Stress Location and the Order of Subject and Verb: Preliminary Data Analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Phonological Externalization volume 4	6. 最初と最後の頁 105-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jiro INABA	4. 巻 Vol.4.
2. 論文標題 Case and Ordering in Prepositional Phrases in German.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Phonological Externalization.	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley	4. 巻 21
2. 論文標題 H and L have unequal status	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『音韻研究』	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley	4. 巻 103
2. 論文標題 Existing and non-existing accents: the case of intervocalic /t/ in English	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tohoku Gakuin University Review: Essays and Studies in English and Literature	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 3
2. 論文標題 Obligatory Contour Principle and Minimalist Syntax	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jiro Inaba and Hisao Tokizaki	4. 巻 3
2. 論文標題 Head Parameters and Word Stress in German	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 32
2. 論文標題 Externalization, stress and word order	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上智大学言語学会報	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 37
2. 論文標題 Righthand Head Rule and the typology of word stress	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 KLS (Kansai Linguistic Society)	6. 最初と最後の頁 253-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2:21
2. 論文標題 Prosody and branching direction of phrasal compounds	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the annual meeting of Linguistic Society of America	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.3765/plsa.v2i0.4070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihito Dobashi	4. 巻 3
2. 論文標題 Termination of Derivation and Intonational Phrasing: A Preliminary Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya	4. 巻 21
2. 論文標題 Extending the application of Merge to elements in phonological representations.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley	4. 巻 21
2. 論文標題 H and L have unequal status	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Studies	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2
2. 論文標題 Historical changes of word order and word stress: An introduction	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki and Jiro Inaba	4. 巻 2
2. 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 45-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyashita, Harumasa and Hisao Tokizaki	4. 巻 34
2. 論文標題 Ancrene Wisse における本動詞と目的語の相対的語順と借入語	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JELS	6. 最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 33
2. 論文標題 Prominence and structure of compounds	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 119-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kayono Shiobara	4. 巻 79
2. 論文標題 A Phonological Approach to Left Branch Condition: Evidence from Exceptions in Japanese	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proceedings of FAJL 8: Formal Approaches to Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Linguistics 79)	6. 最初と最後の頁 143-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi	4. 巻 47
2. 論文標題 Prosodic Phrasing and the That-Trace Effect	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	6. 最初と最後の頁 333-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/ling_a_00213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Changguk Yim and Yoshihito Dobashi	4. 巻 25
2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	6. 最初と最後の頁 213-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshihito Dobashi	4. 巻 2
2. 論文標題 Labeling and Phonological Phrasing: A Preliminary Study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa Kuniya	4. 巻 1(1): 9
2. 論文標題 A precedence-free approach to (de-)palatalisation in Japanese	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Glossa: a journal of general linguistics	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.5334/gjgl.26	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa Kuniya & Phillip Backley	4. 巻 19
2. 論文標題 The role of elements in the development of Japanese h	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiobara, Kayono	4. 巻 62
2. 論文標題 A note on Japanese clause structure: Evidence from variations	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 英米文学評論 (Essays and Studies in British & American	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiobara, Kayono	4. 巻 1
2. 論文標題 Are leftness and rightness rightly left in the syntax?: A preliminary study	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Phonological Externalization (ed.by H. Tokizaki), Sapporo University	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Changguk Yim and Yoshihito Dobashi	4. 巻 25
2. 論文標題 A prosodic account of -yo attachment in Korean	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-016-9142-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshihito Dobashi	4. 巻 1
2. 論文標題 A Prosodic Domain = A Spell-Out Domain?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yosuke Sato and Yoshihito Dobashi	4. 巻 47
2. 論文標題 Prosodic Phrasing and That-Trace Effect	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Linguistic Inquiry	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) to be assigned	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 1
2. 論文標題 Phonological externalization of morphosyntactic structure: Universals and variables.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki and Yasutomo Kuwana	4. 巻 84
2. 論文標題 Polar Question Particles and the Final-Over-Final Constraint	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『文化と言語』(札幌大学外国語学部紀要)	6. 最初と最後の頁 65-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2
2. 論文標題 Dvandva compounds and Obligatory Contour Principle	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学研究費「必異原理の射程と効力に関する研究」成果報告書	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉治朗	4. 巻 1
2. 論文標題 ドイツ語後域の線形化について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Phonological Externalization.	6. 最初と最後の頁 85-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kuniya Nasukawa	4. 巻 1
2. 論文標題 A Precedence-Free Approach to Palatalization and De-Palatalisation in Japanese	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 23-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計85件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 36件)

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Japanese accent in word-prosodic typology
3. 学会等名 NAPhCX Tenth North American Phonology Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Alliteration and the holistic typology of Japanese
3. 学会等名 LACUS 2018 (Linguistic Association of Canada and the United States) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Prosody and the Position of Subject
3. 学会等名 The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Is Korean stress word-level or phrase-level?
3. 学会等名 NINJAL ICPP 2018 (5th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 併合はどこから始まるのか：強勢と境界
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第8回ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 「バスク語の韻律と形態統語論」
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異第8回ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Externalization and morphosyntactic parameters in Basque
3. 学会等名 FLV, 50 years: New methods and trends in (Basque) linguistics International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 頭韻と全体的類型論
3. 学会等名 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究研究成果発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲葉治朗
2. 発表標題 語順と音韻構造
3. 学会等名 日本独文学会春期研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jiro INABA
2. 発表標題 Some Aspects of PPs in German.
3. 学会等名 The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲葉治朗
2. 発表標題 Morphosyntax of postpositions in German.
3. 学会等名 「形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異」 第8回ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshihito Dobashi
2. 発表標題 Workspace, Termination of Derivation and Intonational Phrasing
3. 学会等名 English Linguistic Society of Japan, International Spring Forum, Workshop "Clarifying the Concept Workspace, Revising Merge to MERGE, and Identifying Consequences" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Onuma, Hitomi & Kuniya Nasukawa
2. 発表標題 Velar softening without precedence relations
3. 学会等名 The 26th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Element suppression: dependents are the first to go
3. 学会等名 The 26th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Nancy Kula
2. 発表標題 “ Epenthetic ” consonants in nasal-consonant sequences: Consonant-vowel element interactions
3. 学会等名 Elements: State of the Art and Perspectives, The University of Nantes, France (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Phonological evidence for segmental structure: Insights from vowel reduction
3. 学会等名 Phonology Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Voicing (VOT) contrasts and L2 acquisition
3. 学会等名 Seminar, Departament de Filologia Catalana, Facultat de Filologia, Traducci (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 那須川 訓也
2. 発表標題 言語機能における音韻系の位置づけ
3. 学会等名 九州大学言語学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 全体的類型論による日本語の韻律分析
3. 学会等名 科学研究費 基盤研究(B) 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 2017年度研究成果発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harumasa Miyashita & Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Borrowing Stress Shift and Word Order Change in the History of English
3. 学会等名 SLIN 18 ((Storia della Lingua Inglese) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲葉治朗・時崎久夫
2. 発表標題 韻律から見たドイツ語の語順
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第6回ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 回帰的併合と強勢
3. 学会等名 日本言語学会第 155回大会 ワークショップ：音韻部門における回帰的併合
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao and Jiro Inaba
2. 発表標題 Variation of stress location and word order in prenominal adjective phrases
3. 学会等名 Workshop on Linguistic Variation at the Interfaces
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Initial accent and head-finality in Japanese
3. 学会等名 Workshop on 'Prosody and Prosodic Interfaces in Japanese and Korean' 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲葉治朗・時崎久夫
2. 発表標題 ドイツ語の主要部パラメーターと語強勢
3. 学会等名 日本独文学会 秋季研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Deriving Word Order Universals from Phonology
3. 学会等名 Workshop: Phonological externalization of morphosyntactic structure: Universals and variables (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 Externalization and word order: variables and universals
3. 学会等名 上智大学言語学会32回大会 ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miyashita, Harumasa and Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Word order change, stress shift and Old French loanwords in Middle English
3. 学会等名 5th edition of the international Biennial Conference on the Diachrony of English (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 アルタイ諸語の韻律と語順
3. 学会等名 第84回札幌学院大学言語学談話会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲葉治朗
2. 発表標題 ドイツ語の代替え不定詞構文について
3. 学会等名 「形態統語構造の音韻的外在化: 普遍性と差異」 第6回ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 統語と音韻の関係について
3. 学会等名 明治学院大学英文学科言語学講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshihito Dobashi
2. 発表標題 Interpretability of Syntactic Objects and Prosodic Domains
3. 学会等名 LSA (Linguistic Society of America) Institute of 2017, Workshop "Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables" (ケンタッキー大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Syntactic Labels and the Phonological Component
3. 学会等名 上智大学言語学会第32回年次大会：ワークショップ "On Externalization, Linearization, Language Variation and the Syntax-Phonology Interface" (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Phases, Labels and their Phonological Interpretation
3. 学会等名 日本英文学会第89回大会（静岡大学）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Workspace and its Prosodic Consequence
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第6回ワークショップ（新潟大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Domain boundary marking is parametric
3. 学会等名 The 25th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Representing domain boundary markers: how and where
3. 学会等名 The 15th Annual Conference of the French Phonology Network (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Phonetic externalisation of head-dependent structure in a modulated-carrier model of speech
3. 学会等名 Workshop: Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables. 2017 Linguistic Institute: Language across Space and Time, University of Kentucky, USA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 H and L have unequal status
3. 学会等名 Phonology Forum 2017. Minami-Osawa Campus, Tokyo Metropolitan University, Japan (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Asymmetry between the laryngeal primes H and L
3. 学会等名 Beyond VOT -- searching for realism in laryngeal phonology, The 47th Poznan Linguistic Meeting (PLM2017). Adam Mickiewicz University, Poland (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Acoustic prominence and phonological head-dependent structure
3. 学会等名 The Research Institute of Linguistics, Hungarian Academy of Sciences, University of the Reformed Church in Hungary, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Recursive Merge and elements
3. 学会等名 Government Phonology Roundtable (GPRT) 2017. Catholic University, Budapest, Hungary (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 一值的音韻素性を対象とした回帰的併合
3. 学会等名 日本語学会第 155回大会 ワークショップ：音韻部門における回帰的併合
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Backley, Phillip & Kuniya Nasukawa
2. 発表標題 Segment-internal structure: evidence from vowel reduction
3. 学会等名 The 15th Old World Conference in Phonology. University College London, University of London, UK (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 Linearity in phonology
3. 学会等名 The 6th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables (PHEX6), 新潟大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Recursive Merge and phonological features
3. 学会等名 Tokyo Conference on Evolving Linguistics. University of Tokyo, Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki and Jiro Inaba
2. 発表標題 Prosodic Constraint on Prenominal Modification
3. 学会等名 The 39th Annual Conference of the German Linguistic Society (DGfS) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫・稲葉治朗
2. 発表標題 名詞前位修飾と音韻制約
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異第4回ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Prosody and branching direction of phrasal compounds
3. 学会等名 2017 Annual Meeting of Linguistic Society of America (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫・稲葉治朗
2. 発表標題 名詞修飾の語順と音韻
3. 学会等名 日本語学会第153回大会ワークショップ「形態統語構造の音韻的外在化」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮下治政・時崎久夫
2. 発表標題 Ancrene Wisseにおける本動詞と目的語の 相対的語順と借入語
3. 学会等名 日本英語学会第34回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 語順と語強勢の歴史的变化
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第3回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Recursive strong assignment from phonology to syntax
3. 学会等名 Workshop: Recursion in phonology
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 語順の普遍性と音韻論
3. 学会等名 2016 年度福岡言語学会 (FLC) 第2回例会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 統語と音韻における非対称性
3. 学会等名 九州大学英語学研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤井友比呂・神山 隆仁・時崎 久夫
2. 発表標題 Does Subject-Drop Make Clausal Embedding Harder to Learn? Preliminary Evidence from Japanese Parental Speech
3. 学会等名 関西言語学会第41回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 右側主要部規則と語強勢の類型論
3. 学会等名 関西言語学会第41回大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Stress and word order in English and Korean
3. 学会等名 2016 International Joint Conference of English Linguistics Society of Korea and Korea Society of Language and Information （招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲葉治朗
2. 発表標題 ドイツ語学と生成統語論
3. 学会等名 慶應言語学コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 外在化における解釈可能性についての一考察
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第3回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 音韻的外在化と解釈可能性
3. 学会等名 日本言語学会第153回大会ワークショップ「形態統語構造の音韻的外在化」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Labels and Interpretation in the Processes of Externalization
3. 学会等名 慶應言語学コロキウム Labeling Algorithm and Beyond（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Labeling and Phonological Phrasing
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第4回ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 Representing moraicity in Precedence-free Phonology
3. 学会等名 音韻論フォーラム 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 The phonetic realisation of asymmetric relations
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第3回ワークショップ (PHEX3)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Moraic segments in syllable-free phonology: the mora nasal in Japanese.
3. 学会等名 International conference "Syllables and syllabification: theoretical approaches and pedagogical applications" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 The structural and informational roles of heads and dependents in phonology
3. 学会等名 London Phonology Seminar (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 音韻論における回帰的併合
3. 学会等名 日本言語学会第153回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 The dual role of phonology: generating variation and merging elements
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第4回ワークショップ (PHEX4)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shiobara, Kayono
2. 発表標題 A phonological approach to interwoven dependency constructions
3. 学会等名 the 8th Spring Forum of English Linguistics Society of Japan (日本英語学会第8回春季フォーラム) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Shiobara, Kayono
2. 発表標題 Are leftness and rightness rightly left in the syntax?: A preliminary study
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第一回ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Shiobara, Kayono
2. 発表標題 A phonological approach to left branch condition: evidence from exceptions in Japanese.
3. 学会等名 Formal Approaches to Japanese Linguistics (FAJL) 8 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Some thoughts on the formation of prosodic domains
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第1回ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yoshihito Dobashi and Changguk Yim
2. 発表標題 A prosodic approach to sentence-medial attachment of discourse particles in Korean and Japanese
3. 学会等名 日本言語学会第151回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 土橋善仁
2. 発表標題 Phonological Phrasing: Cross-linguistic Variation Reconsidered
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第2回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Asymmetric Stress and Transfer to PF
3. 学会等名 25th Colloquium on Generative Grammar (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 音韻的外在化の非対称条件：普遍性と差異
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第1回ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 等位複合語と音韻的外在化
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第2回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 必異原理と等位複合語
3. 学会等名 科学研究費基盤研究(B)「必異原理の射程と効力に関する研究」成果報告会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲葉治朗
2. 発表標題 ドイツ語統語現象における線形性
3. 学会等名 「形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と異差」第1回ワークショップ
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 稲葉治朗
2. 発表標題 ドイツ語後域の線形化における問題
3. 学会等名 「形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と異差」第2回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Assimilation and dissimilation in Precedence-free Phonology
3. 学会等名 The 2nd Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 Syllables without constituents: towards melody-prosody integration
3. 学会等名 The Workshop "Around the syllable: phonetics, phonology and acquisition" (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya
2. 発表標題 Palatal assimilation and dissimilation in Precedence-free Phonology
3. 学会等名 Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables (PHEX)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Nasukawa, Kuniya & Phillip Backley
2. 発表標題 The potential for expressing contrasts is greater in structural complements than in structural heads
3. 学会等名 The 23rd Manchester Phonology Meeting (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Kunio Nishiyama, Hideki Kishimoto and Edith Aldridge (編) Yim Changuk, Yoshihito Dobashi他 (著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 390
3. 書名 Topics in Theoretical Asian Linguistics: Studies in honor of John B. Whitman	

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya	4. 発行年 2017年
2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam)	5. 総ページ数 237 (担当 121-152)
3. 書名 Bridget Samuels (ed.), Beyond Markedness in Formal Phonology (Linguistik Aktuell).	

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya, Phillip Backley & Hitomi Onuma	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing (Newcastle upon Tyne)	5. 総ページ数 342 (担当 216-231)
3. 書名 Jiyoung Choi, Hamida Demirdache, Oana Lungu and Laurence Voeltzel (eds.), Language Acquisition at the Interfaces: Proceedings of Generative Approaches to Language Acquisition (GALA) 2015.	

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya	4. 発行年 2017年
2. 出版社 John Benjamins (Amsterdam)	5. 総ページ数 322 (担当 146-162)
3. 書名 Geoff Lindsey & Andrew Nevins (eds.), Sonic Signatures: Studies dedicated to John Harris (Language Faculty and Beyond 14).	

1. 著者名 時崎久夫	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232 (136-139)
3. 書名 現代音韻論の動向：日本音韻論学会20周年記念論文集	

1. 著者名 菊地朗、秋孝道、鈴木亨、富澤直人、山岸達弥、北田伸一、土橋善仁、ほか(全26名)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 303
3. 書名 言語学の現在を知る26考	

1. 著者名 日本音韻論学会(那須川訓也 他)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 23(162-165)
3. 書名 現代音韻論の動向: 日本音韻論学会20周年記念論文集	

1. 著者名 時崎久夫(中野弘三・服部義弘・小野隆啓・西原哲雄(監修))	4. 発行年 2015年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 16項目
3. 書名 最新英語学・言語学用語辞典	

1. 著者名 時崎久夫(西原哲雄・田中真一(編))	4. 発行年 2015年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 15
3. 書名 「複合語の生産性と語強勢の位置」『現代の形態論と音韻論の視点と論点』	

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya	4. 発行年 2015年
2. 出版社 Mouton de Gruyter	5. 総ページ数 28
3. 書名 Representing Structure in Phonology and Syntax	

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya	4. 発行年 2015年
2. 出版社 Wiley-Blackwell	5. 総ページ数 19
3. 書名 The Segment in Phonetics and Phonology	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲葉 治朗 (Inaba Jiro) (10323461)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	土橋 善仁 (Dobashi Yoshihito) (50374781)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	
研究分担者	那須川 訓也 (Nasukawa Kuniya) (80254811)	東北学院大学・文学部・教授 (31302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	塩原 佳世乃 (Shiobara Kayono) (30406558)	東京女子大学・現代教養学部・准教授 (32652)	